



代表決定までの軌跡

「第80回都市対抗野球大会」の九州地区予選は、長崎県で行われ、長崎県営野球場（通称・長崎ビッグNスタジアム）と長崎市総合運動公園かきどまり野球場が舞台となった。今回は3チームの出場枠がある。しかし、補強制度や本選までの流れを考えると、目指すべきは第一代表だ。

そして、6月21日に初戦が行われる。相手は6回の出場を誇る「日産自動車九州（荊田町）。実は、「日産自動車」と「日産自動車九州」は、経済・金融危機を受け今年の2月に休部することが決まっている。今大会唯一の町代表の戦いである初戦は、いつも以上の熱戦が繰り広げられることは間違いなかった。

延長11回の末に、日産自動車九州を破ったホンダ熊本は、準決勝でも、出場12回、優勝1回を誇る「JR九州」を3-2で破り、波に乗る。チームには、東京ドームの切符が見えてきていた。次は、いよいよ「沖縄電力」との第一代表決定戦である。

しかし、1回に先制点を取るもそのあとが続き、1-2で第一代表を逃してしまふ。翌日、6月27日に行われる第二代表決定戦に望みを託す。

悲願の東京ドーム出場へ

2回に先頭佐々木が四球で出塁すると、盗塁から相手捕手の送球ミス誘い無死3塁のチャンスを作る。畠中が内野ゴロに倒れ、1死3塁となるが、西川がスクイズを決め1点を先制する。3回には藤野の四球から、三木の犠打で1死2塁とし、深澤のレフト前ヒットで1死1-3塁にチャンスを広げる。熊丸がレフトに犠牲フライを放ち1点を追加。4回にも2死3塁から藤野がライト前にタイムリーを放ち1点を追加したホンダ熊本は5回を終え、3対0とリードを広げる。5回まで1安打で打線を抑える好投を見せていた高峰は、6回の先頭打者にレフトスタンドに本塁打を放たれると、1-2番の連続ヒットに四球を与え、無死満塁のピンチを作る。高峰は内野フライで1死満塁にし、マウンドを上見につなぐ。上見はワイルドピッチで1点を献上するも、任された打者をレフトフライに打ち取り、3番手の山につないだ。山中は2死2-3塁からのピンチを外野フライに打ち取る。6回裏には、熊丸のタイムリーで1点を追加し、4対2としたホンダ熊本は、終盤の7-9回も山中の好投で無失点に抑え、6年ぶり5回目の代表権を獲得した。

Topic 補強選手制度

各地区予選で敗退したチームから合計5人まで選手を補強できるという、都市対抗独特の制度。同一地区で複数の代表チームがある場合、第1代表のチームから補強選手を選ぶことができるので、代表順位も本選で勝ち上がるための重要な要素になる。しかし、今大会では11チームが補強選手無しで本戦に出場となった。



都市対抗野球大会九州予選		
初戦	日産自動車九州 0 - 1 Honda熊本 江波戸秀悟-上見仁志-山中浩史 二塁打 熊丸武志	
準決勝	Honda熊本 3 - 2 JR九州 高峰成範-山中浩史-江波戸秀悟 本塁打 畠中伸知	



都市対抗野球大会九州予選		
第一代表決定戦	沖縄電力 2 - 1 Honda熊本 江波戸秀悟-上見仁志-山中浩史 二塁打 深澤圭	
第二代表決定戦	三菱重工長崎 2 - 4 Honda熊本 高峰成範-上見仁志-山中浩史 二塁打 佐々木健悟 小関武史	

Topic 記念すべき第80回大会

世界的な不況は、大会に出場する企業チームにも影響を及ぼした。例として日産自動車、日産自動車九州の休部やTDKとTDK千曲川の統合などがある。そこで第80回大会では、「大会を通じて社会人野球界を盛り上げたい」との思いから、出場チーム枠を4枠増やして36チームの出場となった。九州地区は、1枠増加の3チーム「沖縄電力、Honda熊本、三菱重工長崎」の出場となる。



6月27日、Honda熊本が都市対抗野球本選出場を果たした。実に6年ぶりの出場だ。都市対抗野球は、読んで字の如く「都市」が戦う大会。過去には準優勝の実績を持つHonda熊本が町を代表して全国に旅立つ。